

知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム in青藍泰斗高校 開催結果

1	日時	令和6(2024)年9月5日(木) 午後1時30分～3時30分
2	場所	青藍泰斗高等学校 創立九十周年記念館2階 視聴覚室
3	出席者	参加者50名(男性31名、女性19名) 県側出席者：知事、教育長、経営管理部長、文書学事課長、政策調整監
4	発言数	10件

主な発言事項

No.	発言事項	関係部局
1	フードロスの県の取り組みについて	保健福祉部、環境森林部
2	少子化対策について	保健福祉部
3	太陽光発電設備について	環境森林部
4	高齢者が移動しやすいまちづくりについて	県土整備部
5	災害に対する備えについて	危機管理防災局
6	高校生が将来も栃木に住み続けたいと思えるまちづくりについて	総合政策部
7	県の暑さ対策について	保健福祉部、環境森林部、県土整備部
8	公共施設の更新や維持管理等について	経営管理部、教育委員会事務局
9	知事が高校生に求めること	総合政策部
10	人に信頼されるための行動について	総合政策部

知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム in青藍泰斗高校 発言及び回答要旨

区分：高校生版 開催日：令和6(2024)年9月5日(木)

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
1	フードロスの県の取り組みについて	1年生	フードロスについて地域で取り組める仕組みがあれば、私たちにも手伝うことができると思うが、何かそのような仕組みなどはあるか。 冷蔵庫等があれば、生活科の生徒が調理したものを地域の人に配布するなどし、地域の人とのコミュニティも築けるし、文化祭の時期ならば無料で配布してフードロスについて一緒に考えられるようなイベントもできるのではないか。	回答者：知事 本来食べられるにもかかわらず廃棄される食品、いわゆる食品ロス（フードロス）は、本県においては、年間（2018年度）で約12万4千トン発生しており、食品ロスの削減は重要な取組である。 このため、県では、食品関連事業者の実態に応じた実証事業の実施や、会食等での食事の始めと終わりの15分は自席で料理をいただく「とちぎ食べきり15（いちご）運動」により普及啓発するなど、発生要因に応じた対策等を講じてきた。 みなさんには、食品ロスを意識して、食べきれぬ量の食材を購入したり、調理のときには食べられる分だけ作るようにする、あるいは残さず食べるなど、できることから始めてほしい。 また、県庁では、未利用食品の有効活用について、10月の「食品ロス削減月間」やイベント等に併せ、家庭で余っている食品等を持ち寄り、「フードバンク活動団体」を通じて支援が必要な方に食品等を提供するフード・ライフドライブを実施している。このフードバンク活動団体は、県内にも複数存在し、NPO法人や社会福祉協議会等様々な団体により組織・運営されているので、みなさんもインスタント食品や缶詰など、家庭で眠っている食品をこれらのフードバンク活動団体に寄付することにより食品ロスの削減に協力いただくことができる。寄付することができる食品には賞味期限が1ヶ月以上残っている常温保存可能なもの等の条件があるほか、支援をするにあたって様々な配慮が必要な場合もある。文化祭りでの食品の配布などのイベントの実施等についても、先生方にもお話しした上で、フードバンク活動団体などにも相談してみると、より具体的な取り組み方を学べるのではないかと思う。	保健福祉部 保健福祉課 (地域福祉担当) TEL:3047 環境森林部 資源循環推進課 (廃棄物対策担当) TEL:3107
2	少子化対策について	3年生	小学校の合併や野球人口の減少など、高校生の自分でも少子化を実感している。 その対策は「じぶん未来学」などを通じて学習しているが、それだけでは将来子どもを持ちたいと思う人は増えないと思う。もっと高校生にも分かりやすく目に見える形で子育てに関する金銭的な支援等を広報してはどうか。	回答者：知事 県では安心して子供を産み、育てることができる環境づくりに市町等と連携して取り組んでいる。とりわけ深刻さを増す少子化に対応するために結婚・妊娠・出産・子育てといった各ライフステージに応じた切れ目のない支援を積極的に行う「とちぎ少子化対策緊急プロジェクト」に現在取り組んでいる。 妊娠・出産・子育てに関する支援については、保育料の免除を今秋、第3子以降から第2子以降に拡充するほか、産後の母子に対する心身のケアや育児サポートを行う産後ケア利用料の助成を行っている。 また、高校3年生までの医療費の無料化や、妊産婦が病気やケガなどで医療機関にか	保健福祉部 こども政策課 (子育て環境づくり推進担当) TEL:3068 (母子保健担当) TEL:3064 (子ども・子育て支援班) TEL:2064

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名（担当）
			また、高校生にも手伝ってほしいことはあるか。	かった場合の医療費の自己負担額を市町村が助成する制度等を実施している。こうした子育て支援制度は、広く知ってもらえるよう、今年３月に開設した栃木県子育て支援ポータルサイト「とこぼ」でお知らせしている。 皆さんには、まずは自分自身が将来関わる可能性があることとして捉え、今のうちから友達などともこのような話題について話し合い、お互いの考え方を理解し合うことも大切だと思う。 将来結婚するかしないか、子どもを産むか産まないかは個人の自由だが、子どもがいなければ学童野球に入る人も少なくなるし、小学校も統廃合が進んでしまう。これを克服するため、県は市町と連携して、結婚したいと思う人が結婚できるように、子どもを持ちたいと思う人が子どもを持てるように、それぞれの希望を叶えるための支援を行っている。皆さんも将来のことを今から考えてみてほしい。	
3	太陽光発電設備について	３年生	私たちが住んでいる葛生では、山が削られ、太陽光発電設備の設置が進んでいる。その中で環境は守られているのか、自然に優しいのか、疑問に思うことがあるが、知事は率直にどう考えているか。	回答者：知事 森林の開発を伴う太陽光発電設備の設置については、地域住民の皆さんから防災、景観、環境保全に係る懸念の声があることから、県は、市町と連携し、事業者の指導をしてきた。併せて、県の条例に基づき、事業者が県を含む関係者と自然環境を保全することを約束する協定を締結し、希少な動植物を保護するなど、自然環境の保全を図っている。また、森林における開発の許可制度では、太陽光発電設備の設置を目的とする場合は、規制強化が図られたところである。 一方で、2050年までにカーボンニュートラル（温室効果ガス排出実質ゼロ）を実現するためには、再生可能エネルギーを最大限導入していく必要がある。そのため、県では庁舎や県立高校、体育館、プール、スタジアム等の可能な箇所への太陽光発電設備の設置に取り組んでいるし、今後も環境保全等に配慮した、地域と調和した再生可能エネルギーの導入が必要と考えている。 なお、太陽光発電設備を設置する場合は、国宛てに申請することになっている。そのため、県では太陽光発電設備の所有者を把握できず、業者に対する強い指導権限もないことから、国に対して情報の提供や権限の強化を求めている。例えば、台風で太陽光パネルが県道を塞いだ場合、所有者等の連絡先が分からない等の問題が生ずるため、太陽光発電設備は、地域と連携し、地域の理解を得た上で設置するべきだと国に意見しているところである。 本県の電力自給率は、太陽光発電や水力発電等の自然エネルギー、真岡の神戸製鋼所の天然ガス発電等で約75%であり、残りの25%は東京電力が県外から調達してきている。県としては電力自給率が100%となるよう引き続きカーボンニュートラルの取り組みと併せ環境破壊しないように努めて参る。	環境森林部 気候変動対策課 （カーボンニュートラル推進室） TEL:3262 自然環境課 （自然保護担当） TEL:3207 森林整備課 （森林保全担当） TEL:3288

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名（担当）
4	高齢者が移動しやすいまちづくりについて	3年生	自宅近くには国道が通っているが、高齢の方が夜中も休めるように、騒音対策にも取り組んで欲しい。 また、自動車社会だからこそ、高齢の方が、もっと楽に移動できるシステムが必要だと思う。地域のバスがあるが、もっと多く、利用しやすく、小回りのきく車だったら、便利なのではないか。L R Tも黒字決算と聞くので、他の地域への取り組みも検討してほしい。 高校生はスマホを使えるので、高齢の方にスマホで予約する方法を教えることはできる。	回答者：知事 道路の騒音対策については、日常の道路パトロール結果を踏まえ、騒音・振動の原因となる道路の段差等を解消するため、舗装の修繕を実施しているほか、地域や交通量などに応じて低騒音舗装の採用や遮音壁の設置を行うなど、沿道の環境にも配慮した道路整備を行っている。 高齢者が移動しやすいまちづくりについては、その実現のために行政や民間、年齢を問わず、みんなが自分のこととして考えることが大切であり、若いみなさんが未来の公共交通について真剣に考えてくれていることを、大変うれしく思う。 公共交通には、民間の交通事業者が運行する鉄道やL R T、バス、タクシーなどの公共交通機関のほか、行政等の市町が小型の車両などを用いて運行するコミュニティバスや乗合タクシー（いわゆる「デマンド交通」）など様々な種類があり、地域の実情に応じて最適に組み合わせることが重要だが、県内では運転免許証を返納した高齢者でも安心して外出等生活できる環境が整っているかという、十分とは言えない状況である。 現在は、自動運転バスの実証実験や乗合タクシー（デマンド交通）へのA I活用などの取組が進められているほか、アメリカなどで進んでいるライドシェアを日本でも導入しようという動きが強くなってきている。 県でも来年度の自動運転バスの実現に向けて実証実験を進める予定だが、将来的にはどこに住んでいても安心して外出できる仕組みや、外出せずともドローンなどで必要な物が庭先まで配達される仕組みなど、新しい技術も導入しながら誰もが安心して生活できる環境を作っていきたい。	県土整備部 交通政策課 （公共交通担当） TEL:2377 道路保全課 （計画保全担当） TEL:2430
5	災害に対しての備えについて	3年生	南海トラフ地震など今後考えられる大きな災害に対しての事前の準備などがあれば聞きたい。 栃木は、海なし県だから、津波の影響を受けないと安心している人は多いと思うが、河川の氾濫では大きな被害を受けた地域もある。過去の災害被害を思い出させ、防災意識を高めるための広報が必要だと思う。 高校生もYouTube配信等で手伝えることはあるので使ってほしい。	回答者：知事 災害から命を守るためには、県民一人ひとりが日頃から防災への関心を高め、災害リスクを認識し適切な避難行動を取ることが重要である。 避難情報周知リーフレットを、本日配付したので、後でご覧いただきたい。 県では、県民の日記念イベント内で「とちぎ防災・減災フェア」を開催するほか、県公式LINEやX、YouTubeなど様々な広報媒体における防災情報等の発信、V R（仮想現実）技術を活用して災害の疑似体験ができるV R防災体験車の貸出しを行うなど、県民の防災意識の向上を図っている。V R防災体験車は学校へも貸出ししているので、皆さんにも地震・風水害・火災等の疑似体験をしてほしい。 また、宇都宮市にある県防災館では、災害に関する展示や疑似体験を通して、過去に発生した自然災害を振り返り、家庭での備えや対策について学べる機会を提供している。現在、新たな防災教育施設を県総合運動公園内に整備することとし、令和10年度のオープンに向け準備を進めているとアろである。	危機管理防災局 危機管理課 （総務企画担当） TEL:2695

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名（担当）
				皆さんには、YouTubeで公開している防災について学べる啓発動画「とちぎ学(まな)ぼうさい」をご覧になった上で、家族や友人、知人などへSNS等で共有することで、災害への備えの必要性をお知らせするよう御協力いただきたい。 高校生のYouTubeによる情報発信については検討していきたい。	
6	高校生が将来も栃木に住み続けたいと思えるまちづくりについて	2年生	栃木は、交通の便が良く、音楽フェス等のイベントも多くあり、生活しやすく、治安が良いなどのイメージがあるが、高校生が将来も栃木に住み続けたいと思えるようなまちづくりなどの取り組みがあれば聞きたい。	回答者：知事 就職や進学を契機に、20代・30代の若い世代で東京圏へ転出するケースが多くなっており、年間1千人から2千人程度いるとみられる。これらの方々に将来、栃木に戻って住み続けたいと思ってもらうためには、高校在学中から、様々な地域活動を通じて地元や地域への愛着を高めてもらうことが重要だと思う。 そこで、県では市町と連携し、高校生等が住民との交流や町歩きを通して地域を知り、地域が抱えている課題を発見し、自ら地域活動に取り組むことを支援する「とちぎ高校生地域定着促進モデル事業」を令和2年度から4年度までの3年間実施し、15市町で取組が行れた。令和5年度からは「とちぎ高校生地域定着活動支援事業」として実施し、「モデル事業」未実施市町における高校生の地域活動に対して50万円を上限に事業費の助成を行うとともに、市町活動報告会や高校生交流会を開催して、これらの取組の全県への拡大を図っており、今年度は茂木町や大田原市で、高校生によるイルミネーション等のイベント開催が予定されているほか、市貝町では、次年度の音楽フェスティバル開催に向けた準備を進めている。 また、地域づくり活動に興味関心を持つ高校生等の若者に対して、地域コミュニティメディアへの出演や、里山を守るための活動などさまざまな地域づくり活動の機会を提供しており、これらの体験活動を通して継続的な活動への参加を高校生のみなさんをお願いしている。皆さんも学校でできることや、佐野市と一緒にやって取り組めることがあれば、県ではそれを応援するメニューを用意しているので、ぜひ活用してほしい。 そして、皆さんにはこれからどんどん勉強して、資格取得などにもチャレンジしてほしい。大きな夢を持っている人には世界で、あるいは宇宙で活躍してほしいし、地元が好きな人には地元で活躍してほしい。外に出た人でも、いつか佐野に戻ってきてそれまでの経験を地域のために活かしたいというときがきたら、私たちはいつでも歓迎する。	総合政策部 地域振興課 （地域づくり支援担当） TEL:2257
7	県の暑さ対策について	2年生	夏は最高気温が41℃を記録することもあり、暑さ対策を聞きたい。ちなみに、知事は、どのような暑さ対策をしているか。また、暑さを逆に使って、日本で一番大きなプールを作るなど、娯楽施設も作ってほしい。	回答者：知事 県では、テレビや新聞、ラジオ、ホームページなどを通じて県民の皆さんに熱中症についての注意喚起を行っている。 高齢者は熱中症になるリスクが高いため、祖父母と一緒に生活している人は暑いなと思ったら、エアコンをそっと点けてあげる等の思いやりをお願いしたい。 熱中症警戒アラート等が発表された場合には、SNS等で直接県民に対し、エアコンの使	保健福祉部 健康増進課 （健康長寿推進班） TEL:3094

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名（担当）
				用、こまめな休憩と水分補給、涼しい環境以外での運動は原則中止等の熱中症予防行動を呼びかけている。 また、今年４月から、危険な暑さから住民が避難することができる「クーリングシェルター」を、各市町の公民館や図書館などの公共施設、休憩スペースがあるドラッグストアなどの民間施設に設置している。設置場所等の情報は、県ホームページで公表しているので、是非後で御覧いただきたい。 熱中症を防ぐためには、普段から「自分も熱中症になるかもしれない」ということ意識して生活することが重要だと思う。 学校の中だけではなくて、外にいても熱中症対策を心がけて、少しでも体に異変を感じたらすぐに周りの人に伝えていただきたい。特に、体力がない高齢者や子どもは熱中症になりやすいので、声かけもお願いしたい。 海なし県の栃木県には、真岡市の井頭公園内に「一万人プール」という夏の貴重な娯楽施設があるので、多くの方に利用してもらいたい。 私自身の暑さ対策は、体の異変を感じたらすぐに経口補水液やスポーツドリンク等を飲んだり、こまめに休憩を取ったりしながら、熱中症にならないよう自分なりに自己防御している。	環境森林部 気候変動対策課 （気候変動適応担当） TEL:3187 県土整備部 都市整備課 （公園緑地担当） TEL:2474
8	公共施設の更新や維持管理等について	３年生	古い公共施設は新しくしたり、（改修して）そのまま利用できるようにしたり、あるいは施設内のトイレをきれいにするだけでも人が集まるのではないかと思います。 今後の公共施設の整備計画について教えていただきたい。	回答者：知事 公共施設は学校の校舎も含めて大体が昭和40年から50年代に作られたものであり、老朽化が進んでいる。 そこで、建物や設備を適切に維持管理していくために「長期修繕計画」を策定し、劣化状況を確認しながら、限られた予算の中で優先順位を決めて改修工事を行っている。全ての建物を一斉に建て替えるわけにはいかないもので、建物を長期間使えるように長寿命化に取り組んでおり、県立高校では、特にトイレなどの衛生設備を最優先で改修している。 回答者：教育長 県立高校では順次建て替えも行うが、建物本体がしっかりしていることからもう少し長く使えるよう、リニューアルにも取り組んでいる。 しかし、不具合も出てきていることから、トイレの洋式化に今一番力を入れており、普通教室がある棟のトイレは来年頃までには100%洋式になる予定である。 もう一つはエアコンで、普通教室には概ねエアコンが設置されたので、今は特別教室への設置を順次進めている。	経営管理部 管財課 （財産活用推進室） TEL:2095 教育委員会事務局 施設課 （施設担当） TEL:3372

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名（担当）
				最大の課題は体育館のエアコンをどうするかだが、現状では体育館にエアコンがある県立高校は一つもない。体育館は避難所として地域の防災拠点にもなるので、そういう観点からも、どういう環境を整えるべきか一生懸命考えなければならないと思っている。 各学校ともやりたいことがたくさんあるが、予算が限られているので、優先順位を付けて施設整備を進めているところである。	
9	知事が高校生に求めること	3年生	知事が栃木県の高校生に期待する行動や姿勢を教えてください。	回答者：知事 県も高校生の活動を応援しているので、皆さんにはぜひ、地域を盛り上げたり、地域の課題を解決したりする活動をしてほしい。そのためには、まず地域のことや栃木県のことをよく知り、その上で世界のことも学んでもらいたい。 自分の故郷も日本も好きではない、知らないという人は、外国では尊敬されない。外国の人から信頼されたり、尊敬されたりする人は、例えば、日光の二社一寺の素晴らしさや豪華さなどの特徴を相手に伝えることができたり、「佐藤」という名字の人がなぜ佐野に多いかを説明できたりする人であり、そういうことを相手に説明できることが必要である。 それから、できることとやりたいことは異なるもの。できるからといってそれをやるのではなく、本当に自分がやりたいことは何かを考えてほしい。今できることとやりたいことが同じかどうかを見極め、やりたいことができる自分になってほしい。できることをやるのは当たり前のことで、やりたいことに挑戦してみて、だめなら新しい目標を立てればよいと思う。 10代20代はいろいろなことに挑戦して、失敗や成功を繰り返し、本当にやりたいことが見つかったらそれに命をかけるべきであると思う。 まずは地域の良さを知って、知識を得て、その上で自分がやりたいこと、つまり天職に出会えるように挑戦し続けてほしい。そのためには体力も必要だから、若いうちに体を鍛えて病気に負けない体力を備えて、世の中に貢献してほしいと思う。	総合政策部 広報課 （広聴担当） TEL:2158
10	人に信頼されるための行動について	3年生	部活でキャプテンを務めているが、信頼を得るためにはどのような行動が必要だと考えているか教えてください。	回答者：知事 人にとって必要なものはまず信頼されることである。信頼の上に尊敬があり、一人前になれると思う。 嘘をつかず、言ったことは実行し、人に迷惑をかけるようなことをしない生活を続けていれば、周りの評価が上がって信頼されると思う。 加えて、尊敬されるようになるには、勉強をして知識をたくさん身につけて、様々な経験をしたり、いろいろな人の話を聞いたりすることが重要である。判断を誤らないことも大切であるが、もし誤ってしまった場合に原因を究明し素直にお詫びをして出直すことも重要である。 皆さんはこれから進学や就職し活躍すると思うが、信頼され、そして尊敬される大人にぜひなってほしい。	総合政策部 広報課 （広聴担当） TEL:2158

※関係課名（担当）欄の電話番号は、栃木県庁028－623－各課共通（4ケタ番号）を記載しています。